とことん知りたい！台湾！ 第8回

こんにちは、台熊友好会です。SNS を見ていると台湾人の知り合いが、首の周りにクッキーの首飾りをつけた赤ちゃんの写真を投稿していました。赤ちゃんの健やかな成長を願うお祝いです。今回は、台湾における赤ちゃんの成育儀礼と守り神「床母」について書いてみようと思います。

TAIYUU 台熊友好会

台湾の赤ちゃん成育儀礼

台湾の赤ちゃんの成育儀礼の中でも重要なのは、三日目、一ヶ月、四ヶ月、満一年に際して行われる儀礼です。

生後 3 日目には、赤ちゃんが男の子の場合、家の「三界公」（神像）と「牌位」（先祖の位牌）に参り、男の子が生まれたと報告します。赤ちゃんが女の子の場合には、生後 30 日目に行います。また生後 3 日目には、男の子、女の子どちらの場合でも、赤ちゃんが早くトイレの仕方を覚えるように、扉の後ろで赤ちゃんを抱えて便を促します。

生後 1 か月目には、「喝満月酒」（ひと月が満ちたお祝いの酒を飲む）と呼ばれる行事があります。最近はホテルの宴会室を借りて行うことも多いですが、うちの息子の時には路地にテントを立てテーブルを並べて、屋外で宴を開きました。お客さんには、料理として「油飯」、「紅蛋」、「麻油鶏酒」などを出し、持ち帰り用に食べ物の包みを贈りました。息子はお客さんから「紅包」（お祝い金）をもらいました。

生後 4 か月目には、「收涎」（涎を拭く）という儀礼が行われます。真ん中に穴の開いたクッキーを作り、糸を通してネックレスのようにして赤ちゃんの首にかけます。訪れた客たちはクッキーを取り、それで赤ちゃんの涎を拭く仕草をします。「收涎收漓漓、嬰仔好腰飼。收涎收搭搭、趕緊叫阿爸」（涎を完全に拭けば、嬰児はよく育つだろう。涎をきれいに拭けば、嬰児は早く「パパ」と呼ぶだろう）などと唱えます。

生後 1 年目には、母方の祖父母が、赤ちゃんに新しい服を贈ります。亀と桃をかたどったお菓子（「麺亀」と「壽桃」）をもってきます。亀も桃も長寿の象徴です。人々はこれらをもって、婚家の神様と祖先牌に参った後、一緒に食事をします。

赤ちゃんの守り神「床母」

ところで、赤ちゃんが育つたびに行われる上記のような儀式には、「床母」という存在が関わっています。「床母」は、赤ちゃんを守ってくれる女の神様で、赤ちゃんのベッドの近くにいるそうです（「床」はベッドという意味）。

赤ちゃんに関するさまざまな不思議は、「床母」を引き合いに出して説明されます。例えば、蒙古斑は、床母が赤ちゃんを見分けるための印だそうです。また、赤ちゃんが笑っているのは、大人には見えない「床母」と遊んでいるからで、赤ちゃんが泣いているのは「床母」が赤ちゃんをからかったり罰したりしているからだと言われます。

赤ちゃんを、かわいいとか、おとなしくていい子だとか、あまり褒めてはいけません。「床母」はそれを聞いて、わざと赤ちゃんをむずがらせるかも知れません。また、赤ちゃんの前で、この赤ちゃんは「重い」（順調に育っている）などとは言ってはいけません。「床母」がいたずら心を起こして、赤ちゃんがあまり食べないようにして痩せさせるかも知れません。赤ちゃんの守り神と言われる「床母」ですが、けっこう気まぐれなようです。

赤ちゃんがいい子にしていなかったり、病気になると、「床母」を拝むことがあります。赤ちゃんのベッドの近くに、台を置き、ご飯一杯、料理した卵一個（鶏卵または家鴨の卵）、紙で作った「床母」の服を置き、線香を点けます。「床母」の服はそこで焼き捨て、ご飯と卵はお母さんが食べます。

「床母」がどれだけの間、赤ちゃんと一緒にいるかは様々です。中には赤ちゃんが小学校に上がるようになっても、「床母」が一緒にいる場合もあります。私の妻は、「床母」は赤ちゃんが成長して話ができるようになるまで一緒にいると言っています。

生まれて間もない赤ちゃんは、まだ人間の世界に完全に参加していない未熟な存在です。赤ちゃんが空を見つめている時に、赤ちゃんはもう一つの世界を見ているのだと言われます。話ができるようになるまでは「床母」の保護下にあるというのは、赤ちゃんは異界と人間の世界の間にいるということです。赤ちゃんが話せるようになり、自分の意志を表現できるようになると、ようやく本当にこの世界の住人になったと見なされます。

台湾民俗を調査した池田敏雄氏は、「台湾人は十六歳で、子供の守り神である床母の保護から脱し、大人の仲間に入る。その間、生まれて大きくなるまでに通過しなければならない関門のうち、特に重要なものは生後三日目、一ヶ月、四ヶ月、満一年の四つの儀式である」と書いています。子どもは様々な成長の儀式を通過していくことで、守り神「床母」の保護からだんだんと脱し、社会のより完全な一員となっていきます。

現在では「床母」を信じる人は減ってきているかも知れません。しかし、赤ちゃんの不思議な動作や様子は、気まぐれな守り神「床母」のせいだというのは面白いですね。　（西本陽一）

中国語一言レッスン

「需要幫忙嗎?」（シュー ヤオ～ バン マン マ）

ここ最近、海外からの観光客がかなり増えてきており、台湾からも多くの観光客が訪れているようです。そこで今回は、困っていそうな人へ声をかける際の常套句。「手伝い、手助け」といった意味の「幫忙（バン マン）」の前に「要（ヤオ）」より丁寧な「需要（シュー ヤオ）」が付いた疑問文で「何かお手伝いしましょうか?」といった意味になります。その後の会話が中国語では続かなくとも、「見知らぬ土地で困っている状況に、誰かが手を差し伸べてくれる」のを感じるのは、暖かい気持ちになる事でしょう。